

武蔵野書院

中古文学会会員様向け特設サイト
2024年10月16日～11月30日

このサイトからのご注文に限り書籍を、
学会割引（税込み定価の2割引）＋送料無料
にてご注文いただけます

ご注文方法

1. **A** 書籍名をクリックする。**B** 書籍QRコードを読み取る。
C 最後のページの注文書で、FAXやメール等で注文する。
A～C のいずれかの方法でご注文ください。
2. **A・B** でご注文の際は中古文学会会員である旨を明記ください。

お支払方法

1. ご注文いただいた書籍をお送りする際に同梱する、郵便振込用紙にてお支払ください（振込手数料ご負担ください）。銀行振込でも承りますが、その際も振込手数料をご負担いただきます。
2. 公費注文の場合、宛名・日付の有無・納品 / 見積 / 請求書の枚数をお知らせください。

*****ご注文・お問い合わせ先*****

武蔵野書院

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-11

TEL 03-3291-4859 FAX 03-3291-4839

e-mail : info@musashinosho.in.co.jp



最新刊

上原 作和 著 みしやそれとも 考証—紫式部の生涯

著者の半生を賭けた紫式部研究の全貌なる
2024年、満を持して主要学説を網羅的に検証した「諸説総覧」を収録。
『源氏物語』出家作法の思想史、宇治十帖の暦象想像力などを文理融合の分析方法で検証した一書。



定価：本体4,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 426頁
刊行日：2024年10月30日 ISBN：978-4-8386-1017-4



最新刊

檜垣 孝 著 長秋詠藻全評釈 中巻

本『長秋詠藻全評釈』上中下三巻は、いわゆる第二類本『長秋詠藻』のうち、俊成自撰部分四八〇首の全評釈を試みたものである。自撰部分の後に加えられている「右大臣家百首」一〇〇首は、仮名に適宜漢字を当てるなど読みやすいように整えた本文のみを、先に刊行した『長秋詠藻全評釈』下巻（武蔵野書院、二〇一八・三）に掲出するにとどめた。また自撰部分四八〇首の後にある奥書も本文のみを同書に掲出するにとどめた。本中巻は、同じく先に刊行した『長秋詠藻全評釈』上巻（武蔵野書院、二〇二一・八）と『長秋詠藻全評釈』下巻とを繋ぐ、中巻にあたるもので、いわゆる部類歌群のうちの四季歌・賀歌・恋歌の部の評釈である。



定価：本体13,000円＋税 判型：A5判上製貼函入仕様 466頁
刊行日：2024年10月8日 ISBN：978-4-8386-0798-3



最新刊

辻 和良 著 歴史物語が物語であること

歴史物語は史書ではなく、物語である。

問題意識の始まりは、文学史的に抵抗なく受け入れられている術語としての「歴史物語」への違和感であった。それは、「歴史」と「物語」という異質なものが、直接的に結び付けられている、一種安易な命名への違和感である。本書では『大鏡』と『栄花物語』を取り上げ、歴史物語が「物語」であることを改めて問う。



定価：本体9,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 258頁
刊行日：2024年8月14日 ISBN：978-4-8386-0796-9



最新刊

常田正代 著

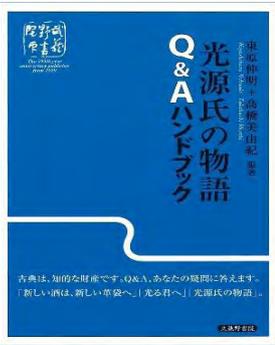
推しが見つかる源氏物語 平安ヒロイン事典

あなたの推しのヒロインは？

『源氏物語』に登場する多くのヒロインには、一人ひとりに個性とドラマがあります。あなた自身とどこかで重なるヒロインが必ずいるはずです。本書を手がかりに、是非あなたの「推し」ヒロインを見つけてみませんか？世界最古の長編小説、『源氏物語』がぐっと身近に、楽しく読めるようになるかもしれません。



定価：本体1,800円＋税 判型：四六判並製カバー装 328頁
刊行日：2024年6月8日 ISBN：978-4-8386-1014-3



最新刊

東原伸明
高橋美由紀編著

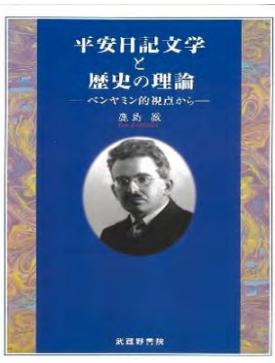
光源氏の物語 Q & Aハンドブック

古典という「知」の遺産活用のために。

光源氏の物語を深く読むための 28の質問。



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 260頁
刊行日：2024年4月15日 ISBN：978-4-8386-1013-6



最新刊

鹿島 徹 著

平安日記文学と歴史の理論 —ベンヤミン的視点から—

日本古典文学を哲学者の視点から読み解く——。

第二次大戦中、ナチスからの逃亡中に自死したドイツの哲学者、ヴァルター・ベンヤミン。

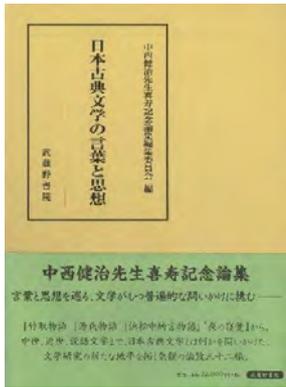
先の大戦を上回る規模の世界戦争勃発が不可避となった事態に衝撃を受けたベンヤミンは、従来とはまったく異なる「歴史の概念」を提唱すべく、「歴史哲学テーゼ」を後世に遺した。

本書は、このベンヤミンから多大な影響を受けた哲学者である著者・鹿島徹が、ベンヤミン的視点から日本古典文学を読み解く試みである。

『土佐日記』『蜻蛉日記』を軸に、哲学者の視点から見る「物語」とはどのようなものか。哲学者の目から「物語」を考えた時、私たちにとっての「物語」の見え方も変わってくるのかもしれない。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 248頁
刊行日：2024年1月15日 ISBN：978-4-8386-1012-9



最新刊

中西健治先生喜寿
記念論集編集委員会 日本古典文学の言葉と思想
編

星山 健 中島正二 松浦あゆみ 大槻福子 吉海直人
横井 孝 荻田みどり 原 豊二 竹内洪介 藏中しのぶ
八島由香 池田彩音 西本寮子 坂本信道 川崎佐知子
曾根誠一 石橋 孝 東野 陸 中西健治 野村倫子
藤井佐美 児島啓祐 本多潤子 中本 大 原田信之
高橋照美 三浦俊介 鈴木耕太郎 須藤 圭 山本 淳
大坪 舞 高井悠子
の、32人の論者による論文集



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製函入 586頁
刊行日：2024年5月15日 ISBN：978-4-8386-0795-2



最新刊

川村裕子 編

平安朝の文学と文化
紫式部とその時代

平安朝をテーマに

荒井洋樹 今井 上 大津直子 岡田貴憲 河添房江
川名淳子 川村裕子 久保貴子 栗山圭子 東海林亜矢子
陣野英則 須藤 圭 高木和子 竹内正彦 田淵句美子
千野裕子 中村成里 畠山大二郎 原 豊二 福家俊幸
緑川真知子 宮下雅恵 諸井彩子 山本淳子 渡辺開紀

の25人の論者による論文集



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 550頁
刊行日：2024年4月26日 ISBN：978-4-8386-0794-5



最新刊

室城秀之 編

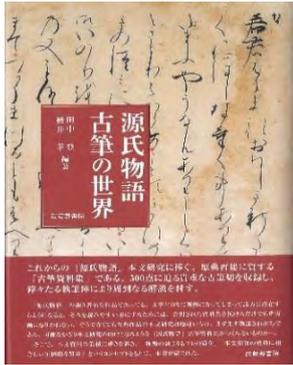
言葉から読む平安文学

言葉に対する正しい認識と理解をもって古典文学と向き合う

古典文学を読む際、その言葉に対する正しい認識と理解は不可欠である。古典作品を文学理論から分析することも大切だが、言葉に対する正しい認識と理解が不十分では、砂上の楼閣になってしまうだろう。作品を言葉から読むことによって、どのような作品世界が立ち現れるのか。それぞれの問題意識をもって、気鋭の論客29名が論ずる。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 568頁
刊行日：2024年3月11日 ISBN：978-4-8386-0793-8



新刊

田中 登
横井 孝 編著

源氏物語 古筆の世界

これからの『源氏物語』本文研究に捧ぐ、原典再建に資する「古筆資料集」。500点に迫る貴重な古筆切を収録し、錚々たる執筆陣により周到なる解説を付す。停滞感に包まれている、原典再建を目指す本文研究。諸処に分散した古筆切を通覧するには、途方もない手間暇を要する。——可能なかぎり本文研究の助けとなるような『源氏物語』古筆資料集がつかれないものか——

という編著者の思いから、ここに、「種類の数よりもツレの数を」「本文研究の資料に相応しい圧倒的な質量」の古筆資料集が編まれた。

〈執筆者〉中葉芳子・佐々木孝浩・高田信敬・田中登
仁平道明・針本正行・舟見一哉・上野英子・横井孝



定価：本体25,000円＋税 判型：B5判上製カバー装 564頁
刊行日：2023年11月8日 ISBN：978-4-8386-0783-9



最新刊

大津直子 著

谷崎源氏の基礎的研究

戦時下から敗戦、そして戦後復興期にかけて変貌し続けた「谷崎源氏」というテキストの動態を通して、現代に生きる我々の「源氏物語観」の淵源を遡りそれが醸成される足跡を検証する。



定価：本体13,500円＋税 判型：A5判上製カバー装 470頁
刊行日：2024年2月14日 ISBN：978-4-8386-0786-0



最新刊

内藤英子 著

源氏物語の表現への道

—歌ことばと漢詩文による新たな言語世界—

『源氏物語』の表現はいかにして創造されたのだろうか。

『源氏物語』以前には、和歌をはじめとして、漢詩文や仏典、作り物語・歌物語など様々な先行作品が存在した。

それらの作品をもとにどのようにして新たな文学作品を創造しているか、『源氏物語』の表現に至るまでの道のりとその達成を明らかにするのが本書の目的である。 —序より



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 454頁
刊行日：2024年2月2日 ISBN：978-4-8386-0787-7



新刊

藤平 泉 著

新古今時代後期和歌表現の研究

歌才に富んだ秀能とその周辺を探る

藤原俊成・定家らがいわゆる「新風和歌」を形成した元久期以後に活躍した歌人 藤原秀能——。

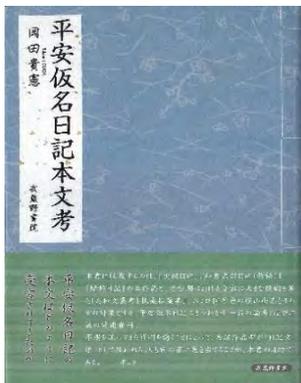
その若き才が後進歌人として歩んできた軌跡を見つめ、彼が生きた新古今時代の歌壇の動向・和歌表現・後世への影響を論ずる。

これまでの研究の中心である藤原秀能の和歌活動とそこから派生した問題について検討した論文をまとめ、新たに書き下ろしを加えた一書。



定価：本体7,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 462頁

刊行日：2023年3月31日 ISBN：978-4-8386-0780-8



最新刊

岡田貴憲 著

平安仮名日記本文考

平安仮名日記の本文はどのように受容されてきたのか

本書に収載するのは、『更級日記』『和泉式部日記(物語)』『蜻蛉日記』の三作品と、近世期における受容に大きな役割を果たした和文叢書『扶桑拾葉集』、および国学者の横山由清をそれぞれ対象とする、平安仮名日記にまつわる十一篇の論考および二篇の関連資料。

不遇を託ってきた資料を繙くことによって、当該作品群が「日記文学」として扱われるよりも前の姿に光を当てるのが、本書の目的である。——序より



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 380頁

刊行日：2023年12月13日 ISBN：978-4-8386-0784-6



最新刊

近代語学会 編

近代語研究 第二十四集

肥爪	周二、	坂詰	力治、	山田	潔、	矢田	勉、	浅川	哲也
松井	利彦、	小松	寿雄、	長崎	靖子、	小柳	智一、	平井	吾門
佐藤	貴裕、	今野	真二、	米田	達郎、	久保田	篤、	新野	直哉
伊藤	博美、	北澤	尚、	園田	博文、	許	哲、	常盤	智子
林	淳子、	服部	紀子、	櫻井	豪人、	荒尾	禎秀、	玉村	禎郎
田和真	紀子、	村上	謙						

の総勢27人の研究者による論文集



定価：本体16,300円＋税 判型：A5判上製函入 630頁

刊行日：2024年3月11日 ISBN：978-4-8386-0790-7



最新刊

原 由来恵 著

枕草子の読み解き —地名類聚そして言語遊戯—

『枕草子』という作品は何なのか。

清少納言が中宮定子に仕えた時代は、大きな不安が包み込む時代でもあった。しかしそれらの悲劇性を『枕草子』の作者は感じさせることはない。『枕草子』のストラテジーはどのようなものであったのか。これまで注目されてこなかった「地名」類聚章段群を軸に、言語遊戯性とコンテクストから作品の本質を解き明かした今後の研究の地平を拓く画期的な一書。



定価：本体9,800円＋税 判型：A5判上製カバー装 454頁
刊行日：2024年2月27日 ISBN：978-4-8386-0792-1



最新刊

高橋秀子 著

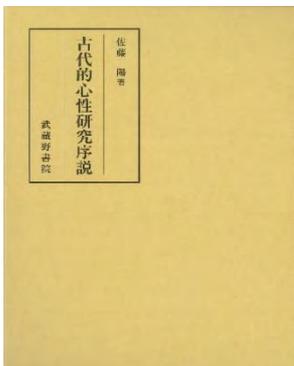
平安前期物語と和歌史 —現実世界と物語世界を越境する和歌—

現実世界と物語世界の和歌

物語が次々と誕生した10世紀。その物語には必ず和歌が書かれている。現実世界の和歌と物語世界の和歌は、どのように同じで、どのように異なるのか——。物語の和歌を組み込んで和歌史を捉えるという、新しい試みに踏み出す一書。



定価：本体8,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 238頁
刊行日：2024年2月13日 ISBN：978-4-8386-0785-3



最新刊

佐藤 陽 著

古代的心性研究序説

本書の大きな目的は「古代的心性」の一斑を明らかにすることにある。具体的には折口信夫が楽音の俎上に上せた「芸能」の論、および折口学の中核である「まれびと」「常世」の論を足掛かりとして、それらを批判的に受け継ぎ実証的に「古代的心性」へ近づきたいと考える。本書は第一部「芸能」、第二部「踏歌研究」、第三部「常世」からなる。



定価：本体12,000円＋税 判型：A5判上製函入 366頁
刊行日：2024年2月28日 ISBN：978-4-8386-0791-4



新刊

河添房江
松本 大 編

源氏物語を読むための25章

『源氏物語』をより専門的に読んでみたいと思う大学生・大学院生や中高の教員、一般の方々に向けて、研究のおもしろさを伝える。一つの巻を中心にテーマ別に論じたものを巻順に並べた25章（桐壺巻～浮舟巻）からなる『源氏物語』研究ガイドブック！

定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 332頁
刊行日：2023年10月1日 ISBN：978-4-8386-1009-9



新刊

廣田 收 著

紫式部は誰か

『紫式部は誰か』って、書名として奇妙だと思われませんか？。この問いに正面きって答えようとする、なかなか難しいものがあります。確かに紫式部は平安時代に生きた人ですが、いくら歴史的資料を探しても、本当のところどんな人だったのかはよくわかっていません。いっぽう、文学の側からみると、彼女はまちがいなく『源氏物語』『紫式部日記』『紫式部集』の中に居る、ということが本書の出発点です。これらの作品はそれぞれ随分と性格が異なりますが、切り口を工夫して読んでみれば、実はその根底で繋がっていることが確かめられます。彼女が遺した作品の中に潜む「紫式部は誰か」という問いについて、本書を手がかりにして、一緒に考えてみませんか？〔著者識〕

定価：本体2,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 284頁
刊行日：2023年7月20日 ISBN：978-4-8386-1008-2



新刊

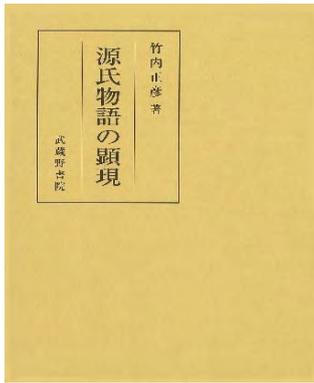
中島 紀 著

大和の大王家の姓と 聖徳太子の死の真相

—万葉集や伝承の語る王朝交代の七世紀

王朝交代は七世紀に起こった。そして勝者によって書かれた『日本書紀』が、オーソドックスとなる。一方旧大王家の後裔は、微妙なカムフラージュを施した『万葉集』の和歌の形で、歴史の真相を残そうとした。和歌や『今昔物語』などの伝承を参照すると、この時代が明らかになる。重要なのは、聖徳太子の死の真相である。

定価：本体2,000円＋税 判型：四六判上製カバー装 180頁
刊行日：2023年10月25日 ISBN：978-4-8386-1011-2



竹内正彦 著
源氏物語の顕現

『源氏物語』という緻密に織りあげられた表現世界。
その世界は、読むという行為によって顕現してくる。

本書は『源氏物語』における表現世界の究明をめざした。光源氏とは何か。光源氏をめぐる物語とはいかなるものなのか。彼が歩んできたその踏み跡をたどりつつ、いまここに生き生きと顕現してくる物語の動的な様相を論じる。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製函入 530頁
刊行日：2022年12月16日 ISBN：978-4-8386-0771-6



新刊 勝亦志織 著 **平安朝文学における語りと書記**
—歌物語・うつほ物語・枕草子から—

十世紀文学における「語り」と「書記」の問題について

本書は、『伊勢物語』『大和物語』『うつほ物語』『枕草子』という十世紀に成立基盤を持つ文学作品を対象としている。理由は二つある。一つは文学史的にはバラバラなジャンルに位置付けられた作品であるがゆえに見過ごされてきた関係性を見直すため。もう一つは日本古典の最高傑作とされる『源氏物語』よりも前に成立した作品の意義を見直すことで『源氏物語』もまた数々の先行作品の蓄積のもとで成立したことを改めて見直したい、ということである。

定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 276頁
刊行日：2023年3月3日 ISBN：978-4-8386-0776-1



新刊 後藤幸良 著 **伊勢物語と四季**

四季の扉の向こうに広がる、伊勢物語の新たな相貌

平安時代、竹取物語から源氏物語・狭衣物語へと続く物語史において、四季は飛躍的に重要性を増していった。その中間部の伊勢物語では、四季はどのような意義を発揮しているのか。伊勢物語は、古今集に代表される四季観を踏まえつつも、それを特有な形で継承することによって、四季の物語を成り立たせている。和歌集・漢詩文集などの四季観を要所に導入して個々の四季物語が実現し、そしてそれをテコとして伊勢物語の世界全体が、かけがえなく支えられていく。本書ではその様相が、春夏秋冬の各領域において明確に提示されている。

定価：本体9,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 286頁
刊行日：2023年2月7日 ISBN：978-4-8386-0773-0



毛利 香奈子 著
いはでしのぶ物語の研究—王朝物語文学の終焉—

『いはでしのぶ』という物語のなんたるかを問う

後嵯峨院時代に作られたとされるこの物語をはじめ、中世王朝物語は、『源氏物語』等の「模倣」として軽く扱われてしまうことが多い。この物語を精査し、「研究史」を問い、第一部では「見ること、似ること」のその双方の関係を捉えなおし、第二部では「手紙」という重要なアイテムから、物語の前半と後半での担う役割に注目し、第三部では「琴」と「笛」といった「楽器」や音楽からその背後にある皇統に触れ、第四部では物語の中心人物である「一品宮」について論じる。真正面から『いはでしのぶ物語』に挑んだ一書。



定価：本体10,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 320頁
刊行日：2022年1月31日 ISBN：978-4-8386-0764-8



新刊

畑 恵里子 編

享受される海洋文化
—伝説・楽園・異界—

まもるべき海の異界の、宮殿

「三つの課題が眼前にあった。一つ目は、浦島伝説の研究の現状と市井の人々の享受と乖離である。（中略）二つ目は、現在の浦島伝説の享受の実態把握である。（中略）そして、市井の人々が気軽に参画が可能で、かつ、ある程度の専門性を有する学術的企画はできないものか。これが三つ目の課題である。」

（「あとがき」より）



定価：本体1,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 184頁
刊行日：2023年1月31日 ISBN：978-4-8386-1003-7



新刊

中野 方子 著

新装版 三稜の玻璃
—平安朝文学と漢詩文・仏典の影響研究—

平安朝文学、漢文学、仏典が交叉し生み出す、複雑な光の饗宴

三稜の玻璃（プリズム）を透過した白色光は、七色の彩となって現れる。古のことばも、三稜の玻璃を通して、これまでとは異なる始原の相貌をもって輝き出すのではないか。業平、貫之、友則、伊勢などの和歌や、『伊勢物語』、『源氏物語』を中心とした平安朝文学と漢詩文、仏典という三面のジャンルが交叉し、交響し合う論文集が新装版にて登場！



定価：本体12,500円＋税 判型：A5判並製カバー装 460頁
刊行日：2023年2月10日 ISBN：978-4-8386-0777-8

廣田收 源氏物語研究三部作！



廣田 收 著 表現としての源氏物語

平安京の物語の表現とは何か

平安京の物語とは『源氏物語』をひとつの極とする一方、（互いに影響関係の希薄な）『宇治大納言物語』をもうひとつの極とするであろう。『枕草子』が興味を示し、記録している物語の中で（『宇津保物語』や『住吉物語』等を除き）群小物語がひとつの核をなすまでに至らないとすれば、平安京の物語は、その二極を含む、緩やかな楕円的な世界を意味するであろう。そのように考えると、本書において、説話としての『宇治拾遺物語』『宇治大納言物語』をも対象とすることができる。つまり、本書は「表現としての源氏物語」と題するが、内容からは、『竹取物語』『伊勢物語』『源氏物語』『宇治拾遺物語』などを、かろうじて「平安京の物語」として捉えることが見通せるのではないかという目論見を隠している。



定価：本体14,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 602頁
刊行日：2021年6月23日 ISBN：978-4-8386-0755-6



廣田 收 著 古代物語としての源氏物語

『源氏物語』を「古代文学として読む」という立場

「研究として『源氏物語』をどのように読むのか」というとき、こう読まなければならないという決まった読み方が最初からあるはずもないが、単に恣意的な読みを披露し、散漫な感想を述べるだけでは『源氏物語』の研究としての読みに関感は得られないであろう。なぜなら、私的な読み思わず知らず現代のもしくは近代的な基準による解釈が紛れ込む可能性があるからである。『源氏物語』が「読解至上主義」に陥ることを非難する向きもあるが、その危険性を回避し、私的な読みの暴走を抑制できるのは、注釈と隣接科学の成果を参照することであることは言うを俟たない。

ここに私の立場表明がある。つまり『源氏物語』を「古代物語として読む」という立場である。（本書「まえがき」より抜粋）



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 368頁
刊行日：2018年8月25日 ISBN：978-4-8386-0712-9



廣田 收 著 文学史としての源氏物語

紫式部という存在を睨み据えつつ…

わが国文学研究のめざすところは、日本的な精神や心性 mentalityの解明だけではないし、逆に普遍的な元型arche-typeの発見だけでもない。まさに『源氏物語』がどのような仕掛けや仕組みによって構築された本文であるかを明らかにすることを目的とする、と言挙げすればよいのではないか。その目的と方法こそ、『源氏物語』の本文そのものが「文学史としての『源氏物語』」であると捉えることに他ならない。ひとことで言えば、紫式部という存在を睨み据えつつ、古代の古代、古代の近代との併存する本文としての『源氏物語』を、基層と表層との重層性において捉えるという目論見である。（はしがきより）



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製カバー装 352頁
刊行日：2014年9月26日 ISBN：978-4-8386-0276-6

深沢徹 一連の三部作、これにて完結！



新刊

深沢 徹 著

演能空間の詩学

—〈名〉を得ること、もしくは
「演技する身体」のパフォーマティブ—

深沢徹 一連の三部作、これにて完結！

コロナ禍に明け、ロシアのウクライナ進行に暮れた、ここ何年間かの世界史的出来事は、従来のライフ・スタイルを一変させた。この時期を当事者とし生き、その空気をめいっぱい吸い込んでそれに寄り添い、伴走するかのような心づもりで本書を書き上げた。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 326頁
刊行日：2023年3月20日 ISBN：978-4-8386-1005-1



深沢 徹 著

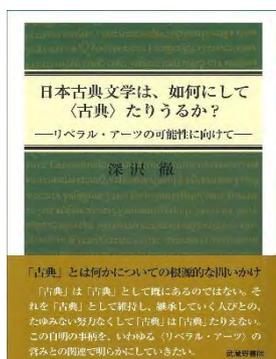
「この国のかたち」を求めて—リベラル・主権・言語—

「この国のかたち」は如何にあるべきか？

ロシアによるウクライナ侵攻という事態が出来て、これはどうしても、いま「本」にしておかねばならないとのやむにやまれぬ思いにかられ、既発表のいくつかの文章を再構成するかたちで、急遽、本書を出版することとした。
——本書「あとがき」に代えて より



定価：本体2,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 222頁
刊行日：2022年5月21日 ISBN：978-4-8386-0500-2



深沢 徹 著

日本古典文学は、如何にして〈古典〉たりうるか？

—リベラル・アーツの可能性に向けて—

「古典」とは何かについての根源的な問いかけ

「古典」は「古典」として既にあるのではない。それを「古典」として維持して、継承していく人びとの、たゆみない努力なくして「古典」は「古典」たりえない。この自明の事柄、いわゆる〈リベラル・アーツ〉の営みとの関連で明らかにしていきたい。



定価：本体3,000円＋税 判型：四六判並製カバー装 276頁
刊行日：2021年4月23日 ISBN：978-4-8386-0493-7



新刊

原 國人 著

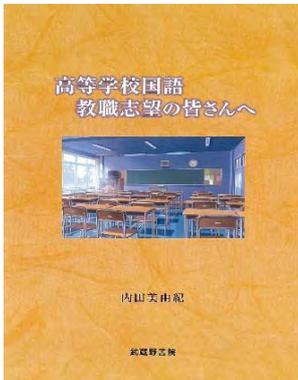
国語教材を壘く

—『ごん狐』から『舞姫』まで

先生！教科書の読み、それで大丈夫ですか？

『ごん狐』から『舞姫』まで。教材の核心に迫る読み解きへの方法と新しい世界の拡大。小・中・高から大学・大学院、そして生涯教育の現場に六十年近く携わってきた著者からの全ての教員と読書好きの読者への目から鱗のメッセージ。

定価：本体7,000円＋税 判型：A5判並製カバー装 340頁
刊行日：2023年5月15日 ISBN：978-4-8386-1007-5



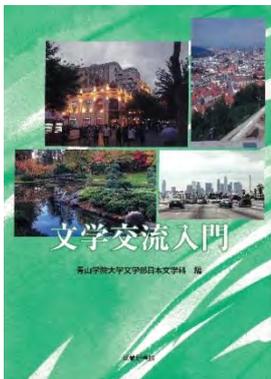
最新刊

内田美由紀 著

高等学校国語教職志望の皆さんへ

本書は高校の国語科教員になりたい方のための本です。
本書では高校で教える際の国語の教科としての特色を述べ、教育実習に来る人々に早い時期から知っておいてほしいこと、教育実習やその後のこと、赴任してからのこと、高校の公務での教務的な問題について、学習指導要領や教科書についてなどをわかりやすく簡潔に述べています。

定価：本体1,000円＋税 判型：B5判並製 66頁
刊行日：2024年2月15日 ISBN：978-4-8386-0661-0



新刊

青山学院大学
文学部日本文学
科 編

文学交流入門

〈文学交流〉とは

この本では、「文学交流」を「異文化に立脚した文学相互の〈双方向〉的交流」と定義し、一つの研究分野として、幅広い時間・空間の中で、さまざまな角度から、かつ体系的に考察します。このような意味での「文学交流」を、この本では〈文学交流〉と表記します。そして、〈文学交流〉の研究は、文学を通じて、異文化間の〈相互理解〉（“相互誤解”も含めて）が、過去から現在まで、また広い地域間でどのように行われてきたかを解明し、未来の〈相互理解〉に貢献することをめざします。

定価：本体1,500円＋税 判型：A4判並製 128頁
刊行日：2023年9月1日 ISBN：978-4-8386-0659-7



最新刊

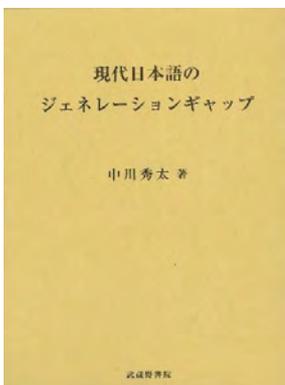
松宮貴之 著

書人 郭沫若

文人・郭沫若の書とともに、彼の軌跡を辿る。彼が生涯を懸けて向き合ったものは。
激動の近現代史に於いて 中国の政治の中樞を 書はいかに駆け抜けたのか—



定価：本体2,600円＋税 判型：A5判並カバー装 214頁
刊行日：2024年9月6日 ISBN：978-4-8386-1016-7



最新刊

中川秀太 著

現代日本語の
ジェネレーションギャップ

- 1 序章
 - 2 日本語検定の方法と現状
 - 3 標準語について
 - 4 近現代における発音・アクセントの移り変わり
 - 5 東京の固有名アクセントの動揺
 - 6 語形の世代差（断絶）
 - 7 国語辞典の語の表記
 - 8 教科書と放送における標準表記の比較
 - 9 動詞の表記
 - 10 サ変動詞語幹の表記および読みがなの基準について
- 含む24章からなる



定価：本体11,000円＋税 判型：A5判上製函入 548頁
刊行日：2024年8月22日 ISBN：978-4-8386-0797-6



最新刊

飯泉健司 著

播磨国風土記を読み解く
—住まうための文学—

『播磨国風土記』の〈読み〉の可能性とロマンがここに

『播磨国風土記』の特徴であり本質でもある「素朴さ」を解明する鍵は〈住まう〉ための知恵と、文学的要因の萌芽にあると考える。よって本書は〈住まう〉と〈文学〉という観点から、『播磨国風土記』を読み解くことを目的とする。
——「はじめに」より



定価：本体5,000円＋税 判型：四六5判並製カバー装 814頁
刊行日：2024年8月7日 ISBN：978-4-8386-1015-0

